

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

稲本来の力を最大限に引き出す 外観だけではなく 中身も優良な米を作ろう!

思わぬ大雪にな
ってしまいました。
皆さま方も除雪で
難儀されておられ
ることと思います。
時期がくればすべ
て消えてなくなっ
てしまうものでは
から、建設的な作
業とはいえず、ま
ったく無駄な作業
で疲れだけが積み

つてしまいました。
平成18年以來の大雪だ
そうで、連日除雪に追わ
れています。ところが、
除雪で苦労したという当
時の記憶はほとんどあり
ません。むしろ、今年の
雪の感触は若い頃に行っ
た志賀高原や八方尾根ス
キー場の雪質を思い出さ
せてくれました。平場な
のに雪の温度が低いため
だと思えます。

物忘れがひどくなつて
いるのは年のせいだと諦
めていましたが、そうば
かりではないことが2月
3日付けの新潟日報で判
りました。山雪だった18
年に比べて今冬は里雪型
で、山間地では18年に近
い積雪ですが、柏崎では
35センチ多い88センチの
積雪が観測されていたの
です。海岸から少し山手
の我が家の周辺では1.
5メートル位の積雪にな

つています。
除雪で一番苦労してい
るのは育苗ハウスです。
3棟の内の1棟だけ被覆
材を張ったままにして農
機具の保管庫として使用
していますので、降雪20
センチ位でも除雪機械で
排雪しなければなりません。
積雪が多くなりすぎて
ると作業が難しくなつて
しまうからです。すでに
10回位も除雪作業をやっ
ています。

育苗ハウスは完全な防
鳥対策をやっているはず
ですが、セグロセキレイ
やスズメが入り込み、入
り口戸を開放しても出て
いって来ません。閉じ
込めたままでは彼らも生
きていけませんので、バ
ケツに水を汲んで与えて
います。

1月29日付けの新潟日
報の「私の視点」【※別
紙参照】に技術士の瀬古
龍雄さんが「食味検査の
追加重ねて望む」と題し
て、「米の検査に食味を
入れよ」と主張しておら
れました。
その中で瀬古さんは、

「多くの消費者は1等米
が2等米よりおいしいと
誤解している」、県作物
研究センターによる食べ
比べでも1等と3等の等
級の違いによる「味に差
がないという結果だった」。
だから、「農林水産省は
外観だけの検査に味の検
査を加えよ」というもの
です。

しかし、生産者から検
査済みの袋を直接購入し
ている消費者以外は、自
分が食べているお米の等
級を知ることにはないはず
です。玄米等級が判るの
は精米業者の段階までで
す。

確かに、現在の検査は
外観だけです。検査の目
的は精米歩留りと、精米
の品質「粉状質粒・細粒・
着色粒などの混入度合」
などについて玄米を見て
予測して判定するための
ものです。しかし、現在
の等級検査がまったく食
味に関係ないかという
と、そうばかりではありませ
ん。たとえば早刈りして
青未熟粒が多く、下位等
級に格付けされた米の食
味は決して良くないはず

です。細粒が多ければ(現
在では精米段階で除去さ
れています)舌触りが
悪いはず。もちろん、
これらは副次的なもので、
あくまで本来の検査の目
的ではありません。

現在ではいわゆる食味
計も進歩していて、人間
の食味に近い判定をおこ
なえるようになってい
ようです。しかし、食味
というのは本来人それぞ
れの間で、好み
は千差万別であつてもよ
いのではないでしょう
か。当然、多くの人が好ま
しく思うものがあり、逆
のものがあるという、一定
の範囲はあると思いま
す。機械の数値が絶対的
であるとして、個人の味
覚まで規格化されてしま
うことには疑問をもつて
まいります。

表示のあり方が問題に
なっていますが、放射能
カドミウム、化学合成
添加物、残留農薬など消
費者の健康に直結するも
のほのほの限り詳細に表
示することが必要でしょ
う。食味に関するよう
なものは、消費者自身が選

択できる余地を残すこと
も大事ではないでしょうか。
また、瀬古さんは多収
穫に対するご批判をお持ち
のようですが、安全性
も食味も無視した多収
だけに走ることは当然避
けなければなりません。
しかし、稲本来がもつて
いる能力・力を最大限に
引き出し、健康な稲を育
てることができれば収量も
確保され、食味も等級も
良い米が獲れるのではな
いでしょうか。多収の米
はまずい、反収が少なく
ればおいしい米である
という公式はないはず
です。

私たち新潟の生産者は
「新潟米」という産地銘
柄の恩恵に浸かつて、胡
坐をかいていとしたり
問題です。産地銘柄はそ
の土地で生産されたとい
うだけあつて、他の一切
を裏付けるものではない
わけですから。産地間競争
を生き抜くために、消費者
のためではなく、生産者
自らのために自主的な食
味判定をおこなうことは
大いに意義があると思わ
れます。

《内山常蔵記》